



岩手選抜の一員としてAA全国中学生K-Ball野球選手権大会に出場し、全国レベルの野球を経験した（平成14年8月1日＝静岡県）

地区優勝の原動力

野球の楽しさ、野球をすることのうれしさを覚えた野球少年・銀次君。これまでの努力と根性で培った抜群の野球センスは普代中学校でさらに開花した。

当時、彼が1、2年生のとき同野球部の顧問だった杉下淳さん（現城内中教諭・種市町）は銀次君の印象をこう話す。

「最初から野球感覚ができあがっている感じがしました。ボールの見逃し方や動きに無駄がなく、野球センスが抜群の選手でした」。

1年生のときは代打などで起用されたが、2年生の春から1番・キャッチャーのポジションに就いた。久慈地区新人戦では普代中優勝の原動力となった。

しかし、6月の中総体では久慈中に惨敗。3年生の普代中最後の中総体でも角浜中（種市町）に1回戦で敗れた。

岩手選抜で全国へ

走攻守、三拍子そろった銀次君の実力は県下でも認められ、3年生の春には岩手選抜



っ用すらはお（中
作練習は利さん
にひたすは
宅グひたすは
自ティで振り
がネットをの
さんバットの
保男のバスの姉学
たのネットをの姉学

に選ばれ、全国大会に出場。夏には角浜KUJ1クラブに抜擢され、県で優勝、ここでも全国大会に出場し、2度の全国を経験した。

「中学時代は、みんなと一緒に楽しんで野球ができました」と懐かしく話す。

高校へは甲子園出場の経験を持つことと、何より試合に何回も足を運んでくれた、佐々木大介監督（31・久慈市出身）の熱意に打たれ、盛岡中央高校への進学を決意した。（次ページへ）